



# とらいあんどぐる



2024 年 1 月・2 月

一音会ミュージックスクール発行

「対話する」

たいへん幸せなことに、私がこうして「とらいあんどぐる」で書くへたくそな文章を読んでくださっている方がいます。

そして「楽しみにしています」ともおっしゃってくださいます。リップサービスであるとは分かって、とてもうれしいものです。こんなに幸せなことはありません。

私のはじめて「とらいあんどぐる」のエッセイを書いたのは、12年前の20

12年、1月・2月合併号でした。

それまでは、母、江口寿子が毎号、書いていました。

その母が、2012年1月26日に急死したのでした。

その時のバタバタは、昨日のこのように鮮明に思い出すことができます。

実際、ついこの間のような感覚があります。

その時は、私が「とらいあんどぐる」を書くとか書かないとか、考えるヒマもありませんでした。

だって、ずっと書いてきた人が突然

いなくなってしまったのですから。

「とりあえず」の措置でした。

こうして私は、2012年1月から  
なくすし的に「とらいあんぐる」を書  
くことになったのです。

どこか、「母の代理」、「仮の役割」と、  
今まで見習い気分でつとめていたこと  
を白状します。

これもかつて白状したことがありま  
したが「10年書いたらやめてしまお  
う」と思っていた時期もありました。

ところが今は、そんな気持ちは一切  
なく、「できることならいつまでも書い  
ていたいなあ」と思うのです。それは、  
いうまでもなく、読んでくださった生  
徒さんご家族から、感想や応援のお手  
紙を頂戴できるからです。

今号で、12年間、書き続けたことにな  
ります。もう見習い気分も卒業しな  
くてはいけないと、今さらながら思い  
ます。

ここ数年は、ありがたいことに、「バ

ックナンバー」を読みたいとおっしゃ  
ってくださる方まであらわれました。

「入会してからの『とらいあんぐる』  
はずっと保存しているけれど、その前  
のものも読んでみたい。どうやったら  
入手できますか？」と、何人もの方にお  
たずねをいただくようになりました。

残念ながら過去の号は、廃棄してし  
まいました。



ついこの間、書きはじめたような気  
分にいるのは私だけで、とうとう12  
年です。

ほとんどの方は、過去の号の多くを  
お読みになっていないということに気  
づき、はっとします。

母が書いた号(2011年11・12月号まで)は、すべて冊子化しています。

「あなたが生まれた日」というタイトルで、全10巻あります(販売しています)。

バックナンバーを閲覧できないのは私が書いた分の、2012年1・2月号以降です。

冬休みの時間を使って、恥ずかしながら2012年以降のエッセイを冊子化してみました。

母が書いたエッセイ集のタイトル「あなたが生まれた日」は、母がとても気に入っていたタイトルです。気に入っていた1つのエッセイのタイトルからとっています。

私が書いた分のエッセイ集は、「いつの日か」と名付けました。母にならい、「いつの日か」というエッセイからとっています。

私が、正直に自分の夢を書いた号です。書いた当時は、「夢」などというほ

んわかしものではなく、「生きる目標」そのものでした。

「あなたが生まれた日」の「日」が、過去もっとも幸せだった日を指すのに対し、「いつの日か」の「日」は、未来のもっとも幸せな日を指します。「日」をキーワードに、タイトルをリンクさせてみました。

冊子は、教室の受付のところに置いてあります。それぞれの「日」がどんな日か、もしよろしければごらんください。



12年分のエッセイを整理してみてもこの12年の間、その時々で私が何を考えていたのか、あらためて思い返すことになりました。

「とらいあんぐる」を書いていなければ、思い出せないような話ばかりでした。

一言でいうと、母の死から立ち直るために、泣いて、もがいて、苦しんだ時間であったのかもしれませんが。母をなくして数年の間は、大声で泣きながら書いた号もありました。

しかし冊子化している作業の中で、私はおもしろいことに気づきました。

ある時から私はなげくことをやめ、母がまるで生きているかのように書いています。

これをひらたくいうと「母の死から立ち直った」になってしまうかもしれませんが、ちょっと違うのです。

ある時から私は、母を失っていないかのように気づいたように見えます。

この12年は、母とともに生きてきた12年であったように思うのです。

自分の中にうっすらあった感覚を、はっきり自覚した時があります。

5～6年前のことだったように思うのですが、テレビで、あるインタビュー番組を観ました。



話をしているのは、X ジャパンのヨシキでした（ヨシキさんの敬称略）。グループの中で大きな影響力があったヒデが突然、亡くなり、放心状態になった時のことを語っていました。

私は、ヨシキがどうやって気持ちを立て直したのか、知りたくなり、話にひきこまれていきました。

彼はいいます。

「ぼくは、今でもよくヒデと対話をするんです。ぼくが困った時、『どうしよう？』とたずねると、ヒデが出てくる

んです」

インタビュアーが、不思議そうな顔をしました。

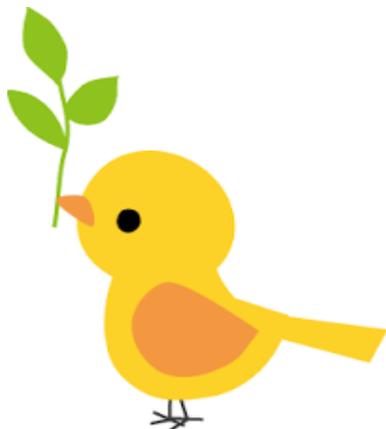
ヨシキは言葉が足りなかったことに気づき、いいおします。

「ぼくが『ヒデだったらなんていうだろう?』と考えるんです。そうすると、答えが出てくるんです」

ああ、私と同じだ！

当時、私も判断に困ることがおこると、母を呼んでいました。母を呼び出して、対話をするのです。

正確に言えば、「母ならどうするかな?」と考えるのです。そうすると、おのずと答えが出ます。まるで母が出てきてしゃべったように。



「ヨシキも私と同じなんだ!」と、うれしくなりました。

ヨシキはこうもいいました。

「おそらくね、それはぼくの考えなんですよ。でもそれでいいんです。ヒデもそういうだろう・・・ヒデがいたら、きっとこれに賛同してくれるだろう・・・そう思うと、自信と勇気がわいてくるんです。ぼくは今も、ヒデと共同作業をしているんですよ。ヒデは、ぼくの中に生きています」

「ああ、この人は、私がいいたいことを全部いってしまったな」と思いました。

ヨシキの言葉は、私が感じていること、そのものでした。

母は生前、よくこういっていました。

「お母さんがいなくなったらね、今まで2人で決めていたのに、アヤコが1人で決めなくてはならなくなって、どうしたら良いか分からなくて困ることが出てくるかもしれない。そんな時

はね、『お母さんだったらどうするだろう？』って、真剣に考えてごらん下さい」  
私が、「分かるかなあ」と不安そうな顔をしていたのでしょう。

母は、きっぱりといいきりました。

「絶対、分かるはずよ。だって、こんなに長い間、ずっと一緒に考えてきたのだから！」

母のこの言葉は、何度も何度も思い返してきましたので、おそらく一字一句、違っていないはずです。

その言葉が私に力を与えてきました。一番、困ったのはコロナ禍でした。前例のない事態に、どうしたら良いか分からないことだらけでした。

そんな時、自分の考えを出そうなんて思ってもダメなのです。考えても考えても、どうしたら良いか分かりません。

母を呼び出すのです。

「母だったらなんていうだろう？」

「母だったらどうするだろう？」

それだけを考えて決めてきました。

私が考えたのではなく、母の考えを推理しただけです。

でもやっぱりそれは私の考えなのです。そんなことは分かっているのです。

でも、母もかならずそう考えるだろうと、やけに強い確信がありました。その確信があるから、迷いません。

母がいたらきっと賛成してくれると思うだけで、背中を押される思いがするのです。

私の中に母が活着していると感じる瞬間です。

(江口 彩子)



## ◆皆さまが、この1年、心おだやかに過ごしになれますように

一寸先のことが見えません。比較的あたたかな冬、コロナも5類に移行し、久しぶりにご親族一同顔をあわせ、楽しいお正月になると信じて疑わなかった日が、ついこの間のことでした。

能登半島地震にともなう災害にあわれた皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

大切な方を失ったお悲しみを思いますと言葉が見つかりません。ご不自由な生活を強いられている方ははやく日常を取り戻せますよう、命をかけて救出に向かっている方がご無事でありますよう、心よりお祈りいたします。

悲しみも不自由もない日が続くことこそが奇跡なのかもしれません。新しいこの1年、皆さまが笑って過ごせる幸せにあふれた年になりますよう、願うばかりです。



## ◆「ピアノ・トライ」がスタートします

たくさんの方に、「ピアノ・トライ」のお申し込みを頂戴しました。今年度の「ピアノ・トライ」は、「対面式」と「動画式」のうち、ご都合の良い方をお選びいただける“ハイブリッド方式”です。

“ハイブリッド方式”も、板についてきた感じがいたします。ですが、1年もたちますと、忘れてしまっているタイミングでもあります。ご不明な点は、お気軽におたずねください。

今年も、「対面式」は満員となっています。ご予約が変わってしまった場合や、当日ご病気でご参加がかなわなくなってしまった場合は、申し訳ありませんが、「動画式」でご参加いただきたいと思います。別日程でのご案内が難しくなってしまったためです。

「対面式」で申し込まれた方が「動画式」に変えたい場合は、いつでもおっしゃってください。変更は可能です。逆（「動画式」→「対面式」）ができない点だけは、ご了承ください。

「対面式」は、1月27日（土）より、スタートします。「動画式」の動画提出〆切は、1月22日以降です（「動画式」は、提出〆切が人によって異なりますので、ご注意ください）。

皆さまの演奏を楽しみにしています。

## ◆ 「ル・コンセール」もハイブリッドです

「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんには、「ル・コンセール」にご出演いただくことができます。ご参加費用はかかりません。

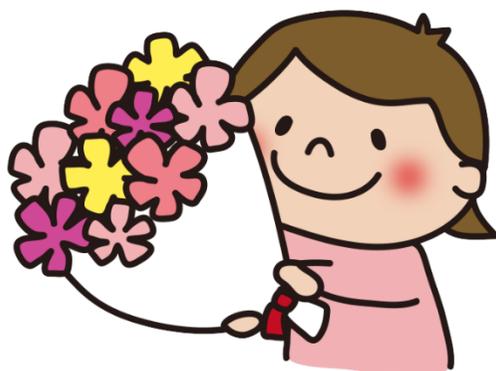
「ル・コンセール」も、「対面式」か「動画式」か、ご都合の良い方をお選びいただく“ハイブリッド方式”です。

「対面式」は、2月11日（日）もしくは2月25日（日）に、「ひびきホール」で開催します。

「動画式」は、「ル・コンセール」用の動画を提出していただきます。「対面式」に準じる形の動画をお願いします。少しよそいきの服装で、演奏の前後のおじぎも含めて撮影をしてください。「動画式」の場合、会場に足をお運びいただく必要はありません。限定公開の You Tube で、皆さんに観ていただきます。You Tube の URL は、「ル・コンセール」にご参加の生徒さんとご家族にだけお知らせしますので、一音会関係者以外の人に見られる心配はありません。期間限定の公開を予定しています。

「ピアノ・トライ」の方式とは関係なく、「ル・コンセール」の方式をお選びいただ

けます。例えば、「ピアノ・トライ」を「対面式」とした方が「ル・コンセール」を「動画式」とすることも、その逆も、可能です。「対面式ル・コンセール」に、人数の上限はありません。



#### ◆「フォルテの会」を開催します

今年の「フォルテの会」は、声楽、フルート、作曲、うたくらぶ（合唱）の発表会です。以下のように開催いたします。

**日時：2024年2月4日（日） 開演12：00**

**場所：「ひびきホール」**

多くの方にご参加お申し込みをいただきました。たいへんうれしいことです。

当日は感染防止のために、会場内を定期的に換気する予定があります。あたたかい服装でお越しください。

ひびきホール

西武池袋線 東長崎駅南口より徒歩5分。

スーパーマーケット「まいばすけっと」が入っているビルの3階です。



## ◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「2024年度レッスン希望表」「新年度資料冊子」「月謝表」「一音会ガイドブック」を、お配りしています。

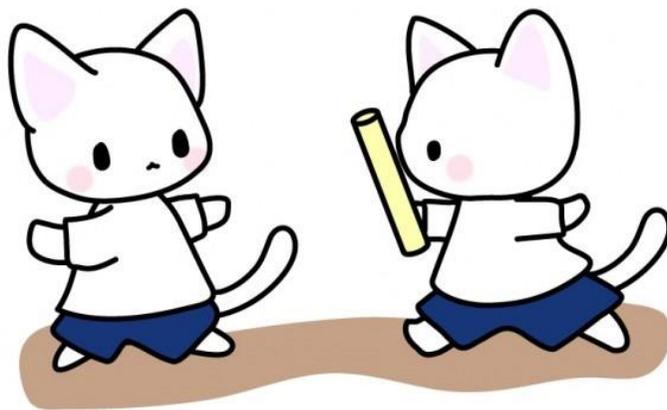
「レッスン希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望を、あらためておうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。特に変更がない場合も、「変更なし」としてご提出ください。書き方が分からない場合は、遠慮なくおたずねください。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しいただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時で受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあけることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフが当たるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

グループレッスンは多くの場合、年度の変わり目に、編成や担当が変わります。同じお時間で継続していただきましても、担当するスタッフが変更することがあります点、どうかご了承ください。



付記していただきましたご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

新年度のスケジュールを確定するまでには、ご希望をおうかがいするために、こちらからご連絡をさせていただくことがございます。

お忙しい方が増え、ご家族の方と、お電話ではなかなか連絡がとれないことが増えています。日中、お電話に出ることができない、そして折り返すことが難しい、というご事情もよく分かります。そのような場合、メールでおうかがいやご相談をさせていただきますと助かります。すでに多くの方がメールアドレスをご登録くださっていますが、ご登録がまだの方もいらっしゃいます。この機会に、ぜひメールアドレスもご記入いただきたいと思います。

希望表は、2月18日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051 豊島区长崎3-19-1

「新年度資料冊子」は、主にスタッフに関する情報を掲載しています。新年度のレッスンをお考えになる際の参考になさってください。

「月謝表」のお月謝金額は、昨年度と変わりませんが、念のためお配りします。

「一音会ガイドブック」は、コースのご紹介の他、この時期、よく頂戴するご質問を載せています。皆さまのご質問やお迷いを、これだけでカバーできているとは思いません。ご不明の点や、ご相談になりたいことは、どうぞご遠慮なく、直接、一音会本部まで、お問い合わせください。

## ◆客員教授の先生方が来日します

先号でもお知らせをしましたが、3月に客員教授のユージン・プリドノフ先生とエリザベス・プリドノフ先生が来日します。

主なイベントは、レッスン、コンサート、オーディションです。

## 【レッスン】2024年3月15日（金）・16日（土）・17日（日）

一音会の生徒さんは、レッスンを受けることができます。すでに多くの生徒さんにお申し込みを頂戴しました。日によっては、まだお組みできますので、ご希望の方はご相談ください。

原語は英語です。通訳が必要な場合は、こちらで手配いたします。通訳不要の場合はレッスン料だけで良いことになります。

30分レッスン……レッスン料（12500円）＋通訳（2500円）→ 15,000円

45分レッスン……レッスン料（18750円）＋通訳（3750円）→ 22,500円

60分レッスン……レッスン料（25000円）＋通訳（5000円）→ 30,000円

## 【コンサート】2024年3月20日（祝）

プリドノフ先生ご夫妻による2台ピアノのコンサートを開きます。場所は「ひびきホール」、3月20日（祝・水）13：30開場、14：00開演です。

チケットは、ショパンはうす受付でご購入いただけます。

一音会関係の方は、中学生以上は前売りで2,000円、（当日は2,500円）、小学生は前売り1,000円（当日は1,500円）、未就学のお子様は無料です。お得な前売りをぜひお求めください。

プログラムは、追ってお知らせいたします。お一人でも多くの方に足をお運びいただけますよう、願っています。

## 【オーディション】2024年3月24日（日）

先号（2023年11月12月合併号）に、エントリー要綱を掲載しました。ぜひ、担当先生と相談しながら準備を進めてください。

審査をつとめるプリドノフ先生ご夫妻、両名より講評をもらうことができます。今

後のお勉強の指針になることでしょう。

なお、「ジュニコン・オーディション」の審査により、選ばれた生徒さんは「第18回ジュニア・コンサート」にご出演いただきます。

「第18回ジュニア・コンサート」は、2024年4月26日（金）夜7時（予定）より、大泉学園「ゆめりあホール」にて、開催予定です。

### ◆絶対音感のレッスンの注意事項を事前にご確認いただきます

多くの方がよくご存じのように、絶対音感のおけいこは、ご家庭でのおけいこの比重が重く、おうちの方にお申ししなければならぬ事柄が多いものです。その点、ピアノのレッスンとは様子が違います。

体験レッスンの際やレッスンをスタートしていただく際、じゅうぶんにご説明をさしあげているつもりであっても、ご家族の方の印象に残りにくかったり、レッスンにつきそうご家族と、おうちでのおけいこを主に担うご家族が違う方であったりするとお伝えしているつもり的事柄と、実際に伝わっている事柄の間にズレが生じてしまいおけいこに良くない影響を及ぼしてしまうことがあります。

2024年1月より、新たに絶対音感のおけいこを検討する生徒さんご家族には、事前にお申ししたい事柄を書面でお知らせし、じゅうぶんに時間をかけてご確認をいただく形に改めます。

内容をご確認いただいた上で、レッスンをキャンセルすることもできますし、ご入会そのものをキャンセルすることもできます。教室は一方で、絶対音感レッスンの空き枠が乏しく、希望する生徒さんにレッスンをお組みできない状況もおこり、ご迷惑をおかけしています。その点からも、単にご希望になった方全員をご案内するのではなく、お申ししたい事柄をはっきりお伝えし、すべての点についてご納得くださった方だけをご案内する形に改めたいと考えています。

ご家族の方が、後から「知っていたら、おけいこをはじめなかったのに・・・」と思うのは絶対に避けるべき事態です。ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力を

よろしくお願いいたします。

## ◆卒業生、反田恭平さんが大河ドラマで演奏しています

今年の NHK 大河ドラマ「光る君へ」のオープニングで、一音会の卒業生である反田恭平さんが演奏をしています。卒業生のご活躍をうれしく思います。

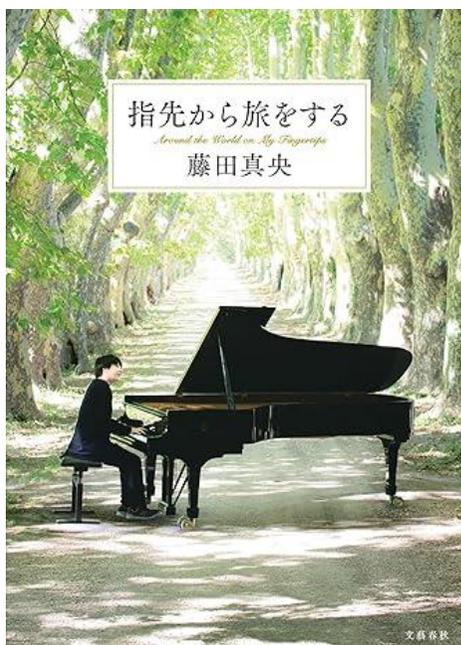
## ◆卒業生、藤田真央さんの本が出版されました

先月、一音会の卒業生である藤田真央さんが執筆した本が出版されました。

「指先から旅をする」(文芸春秋)です。

発売と同時にベストセラーとなり、複数の媒体に書評が掲載されていますので、すでにお読みになった方も多いと思います。

この本は、藤田さんに対する取材をまとめた内容ではなく、藤田さん自身が執筆したものです。音楽的にも内容が深く、興味深い写真もおさめられ、とても読みごたえのある本です。ぜひお読みください。



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[ichionkai.piano@gmail.com](mailto:ichionkai.piano@gmail.com)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。